

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2010-30650

(P2010-30650A)

(43) 公開日 平成22年2月12日(2010.2.12)

(51) Int.Cl.	F 1	テーマコード (参考)
B 6 5 D 77/04 (2006.01)	B 6 5 D 77/04 A	3 E 0 6 2
B 6 5 D 25/54 (2006.01)	B 6 5 D 25/54	3 E 0 6 7

審査請求 有 請求項の数 7 O L (全 12 頁)

(21) 出願番号	特願2008-196502 (P2008-196502)	(71) 出願人	592240127
(22) 出願日	平成20年7月30日 (2008.7.30)		株式会社岩田良
			大阪府八尾市西山本町2丁目7番12号
		(74) 代理人	100087653
			弁理士 鈴江 正二
		(72) 発明者	手塚 明彦
			大阪府八尾市西山本町2丁目7番12号
			株式会社岩田良内
		Fターム(参考)	3E062 AA10 AB02 AC02 JB08 JC02
			JD05 MA07 MA20
			3E067 AA03 AB26 BA01B BA01C BA15
			BB14B BB14C BC03B BC03C CA12
			EB15 FA04 FC01

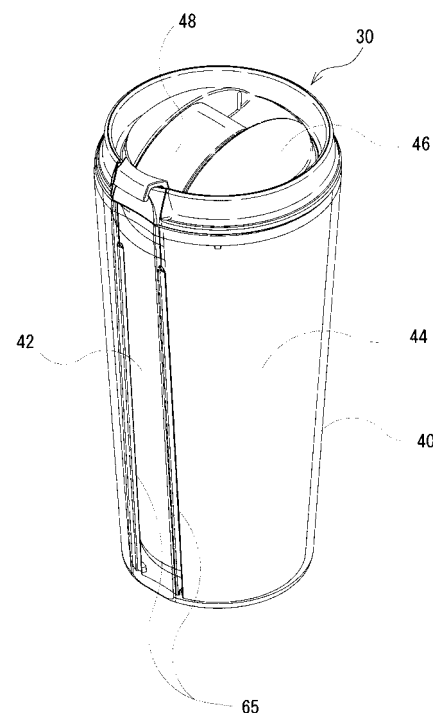
(54) 【発明の名称】 収容器具

(57) 【要約】

【課題】 内容物の残量を視認でき、多品種少量生産が容易な収容器具を提供する。

【解決手段】 収容器具30は、外容器40と、内容器42と、遮光材44と、蓋46とを備える。外容器40は、光が通過可能である。内容器42は、外容器40に収容される。内容器42は、光が通過可能である。遮光材44は、外容器40の内周面と内容器42の外周面との間に収容される。遮光材44は、光の少なくとも一部を遮る。蓋46は、内容器42の口を塞ぐ。遮光材44は、内容器42の外周面のいずれかの部分を覆う。

【選択図】 図1



【特許請求の範囲】**【請求項 1】**

収容器具であって、
光が通過可能な外容器と、
前記光が通過可能で前記外容器に収容される内容器と、
前記外容器の内周面と前記内容器の外周面との間に収容され、前記光の少なくとも一部を遮る遮光材と、
前記内容器の口を塞ぐ蓋とを備え、
前記遮光材は、前記内容器の外周面のいずれかの部分を覆う、収容器具。

【請求項 2】

前記外容器は、内周面に突出部を有する、請求項 1 に記載の収容器具。

【請求項 3】

前記外容器の突出部は、前記外容器の軸方向に沿って配置された線状部分を有する、請求項 2 に記載の収容器具。

【請求項 4】

前記外容器の突出部は、前記外容器の軸方向に対して交差する方向に並ぶ複数の部分を有し、

前記遮光材は、前記外容器の内周面と前記内容器の外周面との間のうち、前記突出部の複数の部分のいずれかを境界とする空間に収容される、請求項 2 に記載の収容器具。

【請求項 5】

前記外容器は、窪みを外周面に有する、請求項 1 に記載の収容器具。

【請求項 6】

前記窪みは、前記外容器の口から底までに及ぶように設けられている、請求項 5 に記載の収容器具。

【請求項 7】

前記内容器は、内周面に隆起部を有し、

前記蓋は、

穴が設けられた、前記内容器の口を被覆する被覆部と、

前記内容器の口に嵌め込まれ、かつ、前記内容器の隆起部に係止する係止部とを有し、

前記内容器は、前記隆起部に前記蓋の係止部が係止するとき、前記外容器の窪みの内側にあたる部分に前記被覆部の穴が対向するよう、前記外容器に固定されている、請求項 5 に記載の収容器具。

【発明の詳細な説明】**【技術分野】****【0001】**

本発明は、収容器具に関し、特に、内容物の残量を視認でき、かつ、多品種少量生産が容易な収容器具に関する。

【背景技術】**【0002】**

特許文献 1 は、塗布容器を開示する。この塗布容器は、含浸材に液剤を吐出し、含浸材から頭髮に液剤を塗り付けるための容器である。この塗布容器は、筒と収容容器とを備える。筒は、窓部と凹部とを有する。窓部は筒側面に設けられる。凹部は窓部に沿って筒内周面に形成される。収容容器は凸部を有する。凸部は、透過部上に収納容器を筒内に挿入する際、凹部に噛み合わせられる。透過部とは、収納容器の側壁面に設けた内部の液剤を示す部分のことである。

【0003】

特許文献 1 に開示された塗布容器によると、容器内の薬剤残量を容易に確認できる。

【0004】

特許文献 2 は、紙容器を開示する。この紙容器は、紙層を基材とする。この紙容器は、紙層の内側に、容器表面層から内層に向かってポリエチレン層、ポリステル層またはポリ

10

20

30

40

50

アミド層、およびアルミニウム層を備える。また、この紙容器は、覗き窓を備える。この覗き窓は、紙基材およびアルミニウム層を除いたプラスチック樹脂多層フィルムからなる。

【0005】

特許文献2に開示された紙容器によると、試薬の残量をチェックできる。

【0006】

特許文献3は、容器箱を開示する。この容器箱は、収納した容器の側面のうちの少なくとも1つに対向する側壁に、開口を備える。

【0007】

特許文献3に開示された容器箱によると、容器を収納したままで使用しても、容器内の粉剤または液剤の減量または残量を知ることができる。

【0008】

【特許文献1】特開2006-6754号公報

【特許文献2】特開2002-80028号公報

【特許文献3】特開2001-270562号公報

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

【0009】

しかし、特許文献1および2に開示された発明では、多品種少量生産が難しいという問題点がある。多品種少量生産が難しいのは、これらの発明を構成する部材に汎用性が乏しいためである。

【0010】

特許文献3に開示された発明においても、特許文献1および2に開示された発明ほどではないにせよ、多品種少量生産が難しいという問題点がある。特許文献3に開示された発明において多品種少量生産が難しいのは、容器箱の形態に汎用性が乏しいためである。容器箱の形態に汎用性が乏しいのは、容器箱の中に容器を収容した状態でその容器の内容物を排出させることが前提となっているためである。

【0011】

本発明は上述の問題点を解決するためになされたものであって、その目的は、内容物の残量を視認でき、かつ、多品種少量生産が容易な収容器具を提供することにある。

【課題を解決するための手段】

【0012】

上記目的を達成するために、本発明のある局面に従うと、収容器具30は、外容器40と、内容器42と、遮光材44と、蓋46とを備える。外容器40は、光が通過可能である。内容器42は、外容器40に収容される。内容器42は、光が通過可能である。遮光材44は、外容器40の内周面64と内容器42の外周面71との間に収容される。遮光材44は、光の少なくとも一部を遮る。蓋46は、内容器42の口70を塞ぐ。遮光材44は、内容器42の外周面71のいずれかの部分を覆う。

【0013】

外容器40と内容器42とにおいて光が通過可能である。遮光材44はその光の少なくとも一部を遮る。遮光材44は、内容器42の外周面71のいずれかの部分を覆う。これにより、蓋46によって内容器42の口70が塞がれていても、遮光材44によって覆われていない部分を通じ、内容器42の中における内容物の残量を視認できる。

【0014】

外容器40において光が通過可能である。遮光材44は、外容器40の内周面64と内容器42の外周面71との間に収容される。そこに遮光材44が収容されるので、遮光材44の外観が収容器具30の表面に表れる。これにより、遮光材44の種類数と収容器具30の種類数とは等しくなる。遮光材44は、外容器40の内周面64と内容器42の外周面71との間に収容されるものに過ぎないので、その形態に関する制約は少ない。その結果、多品種少量生産が容易に実現される。

10

20

30

40

50

【0015】

また、上述した外容器40は、内周面64に突出部65を有することが望ましい。

【0016】

突出部65を有すると、遮光材44の端を突出部65に接触させながら遮光材44を外容器40の中に挿入することで、遮光材44を外容器40の中に収容する作業をスムーズにすることができる。

【0017】

もしくは、上述した外容器40の突出部65は、外容器40の軸方向に沿って配置された線状部分を有することが望ましい。

【0018】

突出部65の線状部分が外容器40の軸方向に沿って配置されているので、遮光材44の一端は、その線状部分に接触させられながら外容器40の中に挿入される際、その軸方向に沿って動くことになる。この場合、その線状部分がない場合に比べ、挿入作業はよりスムーズになる。

【0019】

もしくは、上述した外容器40の突出部65は、外容器40の軸方向に対して交差する方向に並ぶ複数の部分を有することが望ましい。併せて、遮光材44は、外容器40の内周面64と内容器42の外周面71との間のうち、突出部65の複数の部分のいずれかを境界とする空間に収容されることが望ましい。

【0020】

また、上述した外容器40は、窪み61を外周面に有することが望ましい。

【0021】

もしくは、上述した窪み61は、外容器40の口62から底63までに及ぶように設けられていることが望ましい。

【0022】

もしくは、上述した内容器42は、内周面74に隆起部75を有することが望ましい。併せて、蓋46は、被覆部90と、係止部94とを有することが望ましい。被覆部90は、内容器42の口70を被覆する。被覆部90には、穴100が設けられている。係止部94は、内容器42の口70に嵌め込まれ、かつ、内容器42の隆起部75に係止する。併せて、内容器42は、隆起部75に蓋46の係止部94に係止するとき、外容器40の窪み50の内側にあたる部分に被覆部90の穴100が対向するよう、外容器40に固定されていることが望ましい。

【0023】

隆起部75に蓋46の係止部94に係止するとき、外容器40の窪み50の内側にあたる部分に被覆部90の穴100が対向していることにより、被覆部90の穴100から内容物を排出させるとき、窪み50において収容器具を支えることができる。窪み50において収容器具を支えられるので、内容物の排出中に収容器具の傾きを変えたとき、収容器具が予想外の動きをする可能性を低くできる。

【発明の効果】

【0024】

本発明にかかる収容器具は、内容物の残量を視認でき、かつ、多品種少量生産が容易である。

【発明を実施するための最良の形態】

【0025】

以下、図面を参照しつつ、本発明の実施形態について説明する。以下の説明では、同一の部品には同一の符号を付してある。それらの名称および機能も同一である。したがって、それらについての詳細な説明は繰返さない。

【0026】

図1は、本実施形態にかかる収容器具30を示す外観図である。図2は、本実施形態にかかる収容器具の断面図である。図3は、本実施形態にかかる外容器40の正面図である

10

20

30

40

50

。図４は、本実施形態にかかる外容器４０の平面図である。図５は、本実施形態にかかる内容器４２の正面図である。図６は、本実施形態にかかる内容器４２の平面図である。図７は、本実施形態にかかる内容器４２の底面図である。図８は、本実施形態にかかる遮光材４４の平面図である。図９は、本実施形態にかかる蓋４６の斜視図である。図１０は、本実施形態にかかる蓋４６の底面図である。図１１は、本実施形態にかかる蓋４６の断面図である。図１２は、本実施形態にかかるキャップ４８の斜視図である。なお、本実施形態にかかる収容器具３０は、タンブラーとして利用できる。

【００２７】

図１と図２とを参照して、本実施形態にかかる収容器具３０の構成について説明する。収容器具３０は、外容器４０と、内容器４２と、遮光材４４と、蓋４６と、キャップ４８と、滑り止めシート５０とを備える。外容器４０は、光が透過可能な容器である。外容器４０は、透明なアクリル樹脂によって形成されている。内容器４２は、外容器４０に収容される。内容器４２は、外容器４０と同様に、透明なアクリル樹脂によって形成されている。そのため、内容器４２も光が透過可能である。遮光材４４は、外容器４０を通過した光を遮る部材である。蓋４６は、後述する内容器４２の充填口７０を塞ぐ。キャップ４８は、蓋４６に設けられた排出穴１００を塞ぐ。滑り止めシート５０は、収容器具３０が滑ることを防止する薄いゴムシートである。

【００２８】

図２から明らかなように、遮光材４４は、外容器４０と内容器４２との間に収容される。図１から明らかなように、遮光材４４は、内容器４２の全体を覆うのではなく、その一部を覆うように収容される。そのため、収容器具３０のユーザは、遮光材４４によって覆われなかった部分を通じ、内容器４２に収められた内容物の量を外部から視認できる。内容物の量を確認するためにキャップ４８を開ける必要はない。

【００２９】

図３および図４を参照して、外容器４０の構成について説明する。本実施形態にかかる外容器４０は、窪み６１と、収容口６２と、底６３と、突出部６５と、位置決め部６６とを有する。窪み６１は、収容口６２から底６３までに及ぶよう、外周面６０上に設けられている。収容口６２は、遮光材４４や内容器４２を挿入するためのものである。底６３は、内容器４２や遮光材４４や内容器４２に収容された物を支える。突出部６５は、窪み６１の両端の内側にあたる内周面６４上に設けられている。突出部６５は、外容器４０の軸方向に沿って配置された直線状部分である。図４に示すように、外容器４０の内面には突出部６５が２本配置されている。これらの突出部６５は、遮光材４４が収容される空間の境界となっている。図４から明らかなように、これらの突出部６５は、外容器４０の軸方向に対して直交する方向に並んでいる。遮光材４４は、内周面６４のうち窪み６１の内側にあたる部分すなわち突出部６５によって挟まれた部分には収容されない。これにより、窪み６１の外側から、内容器４２の中を視認できる。位置決め部６６は、Ｃ型位置決め部７３とかみ合うことで、外容器４０の向きに対する内容器４２の相対的な向きを決める部分である。Ｃ型位置決め部７３については後述する。

【００３０】

図５～図７を参照して、本実施形態にかかる内容器４２について説明する。内容器４２は、充填口７０と、底７２と、Ｃ型位置決め部７３と、隆起部７５とを有する。充填口７０は、内容器４２の中に内容物を充填するための口である。底７２は、内容物を支える。Ｃ型位置決め部７３は、底７２の外側に設けられている。Ｃ型位置決め部７３は、外容器４０の位置決め部６６とかみ合う部分である。隆起部７５は、内周面７４上に設けられている。隆起部７５は、蓋４６のかみ合い部１０６に係止することで、内容器４２の向きに対する蓋４６の相対的な向きを決めるための部分である。これにより、外容器４０の向きに対する蓋４６の相対的な向きも自ずと決まる。

【００３１】

図８を参照して、遮光材４４について説明する。本実施形態にかかる遮光材４４は、扇形の先端部分を切り取った形をしている。遮光材４４は、外容器４０の内周面６４と内容

10

20

30

40

50

器４２の外周面７１との間に收容される。本実施形態にかかる遮光材４４は、不透明な薄い１枚のシートである。

【００３２】

次に、図９～図１１を参照して、蓋４６について説明する。蓋４６は、被覆部９０と、鍰部９２と、係止部９４とを有する。被覆部９０は、内容器４２の充填口７０を被覆する。鍰部９２は充填口７０の縁にひっかかる。これによって蓋４６全体が内容器４２の中に入り込んでしまうことを防止する。係止部９４は、内容器４２に嵌め込まれ、内容器４２の隆起部７５に係止する。

【００３３】

被覆部９０は、排出穴１００と、軸穴１０２とを有する。排出穴１００は、内容器４２に充填された内容物を排出するための穴である。軸穴１０２は、キャップ４８を蓋４６に取り付けるための穴である。

【００３４】

係止部９４は、パッキン１０４と、かみ合い部１０６とを有する。パッキン１０４は、内容器４２の内周面に密着することで、内容器４２と蓋４６との間の隙間から内容物が流出することを防止する。かみ合い部１０６は、内容器４２の隆起部７５にかみ合う。

【００３５】

図１２は、キャップ４８の斜視図である。本実施形態にかかるキャップ４８は、軸１１０を有する。軸１１０は、蓋４６の軸穴１０２に嵌め込まれる。これにより、キャップ４８は蓋４６に取り付けられる。蓋４６に取り付けられたキャップ４８は、軸１１０を中心に回転することができる。

【００３６】

以上の構成に基づく、収容器具３０の製造方法について説明する。

【００３７】

外容器４０と内容器４２と蓋４６とキャップ４８とは、射出成形により形成される。遮光材４４と滑り止めシート５０とは、素材となるシートを打ち抜くことで形成される。

【００３８】

それらが形成されると、外容器４０の底６３に滑り止めシート５０が貼り付けられる。滑り止めシート５０が貼り付けられると、外容器４０の中に遮光材４４が挿入される。遮光材４４を外容器４０の中に挿入するため、遮光材４４はいったん筒状に丸められ、それが外容器４０の中に挿入される。外容器４０の突出部６５に遮光材４４の端が沿うよう遮光材４４が挿入されると、外容器４０の中で遮光材４４が広がった時、図１に示すように、遮光材４４の両端は、突出部６５を挟み、かつ、それらに接触するようになる。本実施形態に係る突出部６５は、挿入された遮光材４４を底６３の方へ誘導することができる。外容器４０の軸方向に沿う直線状部分を有するためである。ちなみに、本実施形態においては、遮光材４４によって覆われていないために外容器４０の外側から内容器４２の中を視認できる範囲の幅は、窪み６１の幅よりわずかに広い。

【００３９】

遮光材４４が外容器４０の中に挿入されると、外容器４０の中に内容器４２が挿入される。内容器４２が挿入されると、内容器４２は外容器４０の中で少し回転させられる。これにより、外容器４０の位置決め部６６と内容器４２のＣ型位置決め部７３とがかみ合う。それらがかみ合うことで、外容器４０の向きに対する内容器４２の相対的な向きが決まる。その後、外容器４０の収容口６２の縁と内容器４２の充填口７０の縁とは融着される。

【００４０】

外容器４０、内容器４２、遮光材４４、および滑り止めシート５０の組立と並行して、キャップ４８を蓋４６に取り付ける。その取り付けは、キャップ４８の軸１１０を蓋４６の軸穴１０２に嵌め込むことにより行われる。

【００４１】

外容器４０、内容器４２、遮光材４４、および滑り止めシート５０の組立とキャップ４

10

20

30

40

50

8の取り付けとが終了すると、蓋46を内容器42に嵌め込む。蓋46は、次の2つのステップを経て内容器42に嵌め込まれる。第1のステップは、内容器42の充填口70に係止部94を挿入するステップである。このとき、外容器40の窪み61の右隣部分（外容器40を収容口62の側から見たときの右隣部分）の内側に蓋46の排出穴100が対向するよう、係止部94は挿入される。第2のステップは、係止部94が挿入された蓋46を時計回りに回すステップである。第2のステップにより蓋46のかみ合い部106は内容器42の隆起部75とかみ合う。それらがかみ合うと、外容器40の窪み61の内側に蓋46の排出穴100が対向することになる。窪み61の内側に排出穴100が対向するよう蓋46が回されると、収容器具30は完成である。

【0042】

次に、収容器具30の使用例について説明する。図1に示す状態の収容器具30の蓋46を反時計回りに回すと、蓋46を内容器42から引き抜くことが可能になる。蓋46が内容器42から引き抜かれると、ユーザは、内容器42の中に内容物を充填する。この例では、内容物として清涼飲料が充填されることとする。内容物の範囲が特に限定されるものでないことは言うまでもない。清涼飲料が入れられると、ユーザは、蓋46を再び内容器42に挿入し、時計回りの方向に回す。これにより、蓋46のかみ合い部106が内容器42の隆起部75にかみ合う。かみ合い部106が隆起部75にかみ合うので、蓋46は内容器42から抜けなくなる。このとき、窪み61を通して、収容器具30の中に清涼飲料がどれほど入っているのか視認できる。上述したように、外容器40および内容器42が透明なアクリル樹脂によって形成されており、かつ、遮光材44はこの部分を覆わないためである。清涼飲料を飲むときは、キャップ48を開き、排出穴100に口をあて、収容器具30全体を傾ける。このとき、窪み61に親指をあて、他の指を外容器40の外周にあてる。そのように収容器具30を持てば、ユーザは清涼飲料を容易に飲むことができる。それを飲むために、ユーザが腕を不自然に曲げる必要はない。図1に示すように、窪み61の内側に蓋46の排出穴100が対向しているためである。

【0043】

以上のようにして、本実施形態にかかる収容器具30は、内容物の残量を視認でき、腕を不自然に曲げなくてもそれを口に運ぶことができる。また、本実施形態にかかる収容器具30は、さまざまな種類の遮光材44を用いることにより、さまざまな外観にすることができる。その分、多品種少量生産が容易になる。

【0044】

また、本実施形態にかかる収容器具30は、突出部65が次に述べる機能を有している。その機能とは、外容器40の内周面64のうち窪み61の内側部分のいずれかは遮光材44が配置されないよう、遮光材44を位置決めする機能である。これにより、収容器具30が使用された結果として遮光材44が外容器40と内容器4との間で動くとしても、窪み61の内側にあたる部分付近は原則として遮光材44に覆われなくなる。このような機能があると、収容器具30をタンブラーその他の食器として用いるとき、内容器42の中身の残量が視認しやすくなる。収容器具30を食器として用いるとき、窪み61に親指をあて、外容器40の外周面60にその他の指をあて、排出穴100に口をあてて内容器42の中の清涼飲料を飲むことになる。このように収容器具30を持つ場合、手を少し傾ければ、窪み61を見ることができるとのである。

【0045】

今回開示された実施形態はすべての点で例示である。本発明の範囲は上述した実施形態に基づいて制限されるものではなく、本発明の趣旨を逸脱しない範囲で種々の設計変更をしてもよいのはもちろんである。

【0046】

例えば、遮光材44は、図1に示すような、内容器42の外周面を上から下まで覆う部材でなくとも良い。遮光材44は、内容器42の下半分を覆う部材などであっても良い。

【0047】

遮光材44は、1枚の薄いシートによって構成されていなくとも良い。遮光材44は、

10

20

30

40

50

薄い軸などによって互いに持続された複数の短冊によって構成されていても良い。この場合に、複数の方向から、内容器 4 2 中の内容物の量を視認できる。

【0048】

遮光材 4 4 の形状は、図 8 に示すような形状に限られない。例えば、外容器 4 0 に収容された時に互いに対向する部分が波形であってもよい。

【0049】

遮光材 4 4 は、まったく光を通さないシートに限られない。例えば、遮光材 4 4 は、半透明のシートであってもよい。この場合にも、周囲の暗さによっては内容物の量を外から視認できなくなるので、遮光材 4 4 によって覆われていない部分があることの意義は存在する。

10

【0050】

遮光材 4 4 の幅は、外容器 4 0 の中に挿入されたとき窪み 6 1 の幅よりわずかに広くなる幅に限られない。それよりも広くても良いし、狭くても良い。好ましい幅は、遮光材 4 4 によって覆われていないために外容器 4 0 の外側から内容器 4 2 の中を視認できる範囲の形状が長方形に見える幅である。

【0051】

収容器具 3 0 をタンブラとして用いるのではなく他の用途に用いるときは、かみ合い部 1 0 6 と隆起部 7 5 とは、上述した要件を満たすように設けられていなくても良い。場合によっては、それらを設けなくても良い。例えば、清涼飲料などを他の容器に注ぐために収容器具 3 0 が用いられるとき、隆起部 7 5 とかみ合い部 1 0 6 とは、次の要件を満たすように設けられても良い。その要件とは、排出穴 1 0 0 が下を向くとき、窪み 6 1 が横を向くという要件である。これにより、そのユーザは、窪み 6 1 に親指をあてて収容器具 3 0 を支えることにより、腕を不自然に曲げなくても、清涼飲料などを他の容器に安定して注ぐことができる。

20

【0052】

窪み 6 1 は、外容器 4 0 の収容口 6 2 から底 6 3 までを覆うよう設けられていなくても良い。例えば、窪み 6 1 は、外容器 4 0 の中央付近にのみ設けられていても良い。支えやすさを考えないでないのであれば、窪み 6 1 はそもそも設けられていなくても良い。このような場合であっても、遮光材 4 4 が内容器 4 2 の一部を覆っているのであれば、遮光材 4 4 に覆われていない部分を介して内容器 4 2 に収容されている内容物の量を視認することは可能である。

30

【0053】

外容器 4 0 の内周面 6 4 に設けられる突出部 6 5 は、上述したような形態に限られない。例えば、外容器 4 0 の軸方向に沿って配置された小さいば状物体の集合体であっても良い。突出部 6 5 は、外容器 4 0 の内周面 6 4 に設けられた 1 つのいば状物体であっても良い。突出部 6 5 は、外容器 4 0 の軸方向に沿って配置された波型の部分を有していても良い。あるいは、突出部 6 5 は、1 本の直線状部分によって構成されていてもよい。突出部 6 5 は、3 本以上の直線状部分を有していてもよい。突出部 6 5 が外容器 4 0 の軸方向に沿って配置された小さいば状物体の集合体である場合、外容器 4 0 の軸方向に沿ってそれらが配置されることにより、それらは破線状部分を構成することになる。

40

【0054】

外容器 4 0 の内周面 6 4 に突出部 6 5 を設けることによって、遮光材 4 4 を挿入する作業はスムーズになるが、これを求めないのであれば、突出部 6 5 は不要である。

【0055】

外容器 4 0 をその軸に直角に切断したときの窪み 6 1 の断面形状は、図 4 などに示すような円弧状に限られない。それは直線状であってもよいし、多角形であってもよい。

【図面の簡単な説明】

【0056】

【図 1】本発明の実施形態にかかる収容器具を示す外観図である。

【図 2】本発明の実施形態にかかる収容器具の断面図である。

50

- 【図 3】本発明の実施形態にかかる外容器の正面図である。
【図 4】本発明の実施形態にかかる外容器の平面図である。
【図 5】本発明の実施形態にかかる内容器の正面図である。
【図 6】本発明の実施形態にかかる内容器の平面図である。
【図 7】本発明の実施形態にかかる内容器の底面図である。
【図 8】本発明の実施形態にかかる遮光材の平面図である。
【図 9】本発明の実施形態にかかる蓋の斜視図である。
【図 10】本発明の実施形態にかかる蓋の底面図である。
【図 11】本発明の実施形態にかかる蓋の断面図である。
【図 12】本発明の実施形態にかかるキャップの斜視図である。

10

【符号の説明】

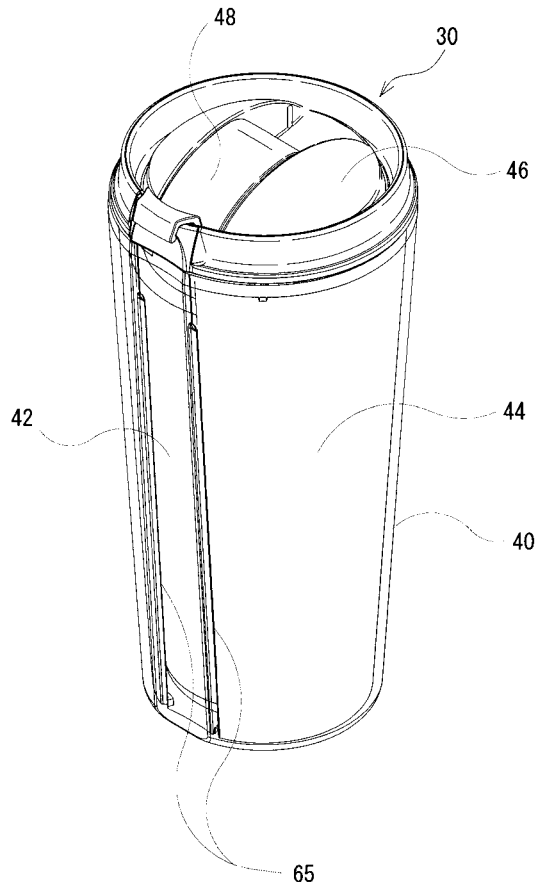
【0057】

- 30 収容器具
40 外容器
42 内容器
44 遮光材
46 蓋
48 キャップ
50 滑り止めシート
60, 71 外周面
61 窪み
62 収容口
63, 72 底
64, 74 内周面
65 突出部
66 位置決め部
70 充填口
73 C型位置決め部
75 隆起部
90 被覆部
92 鍔部
94 係止部
100 排出穴
102 軸穴
104 パッキン
106 かみ合い部
110 軸

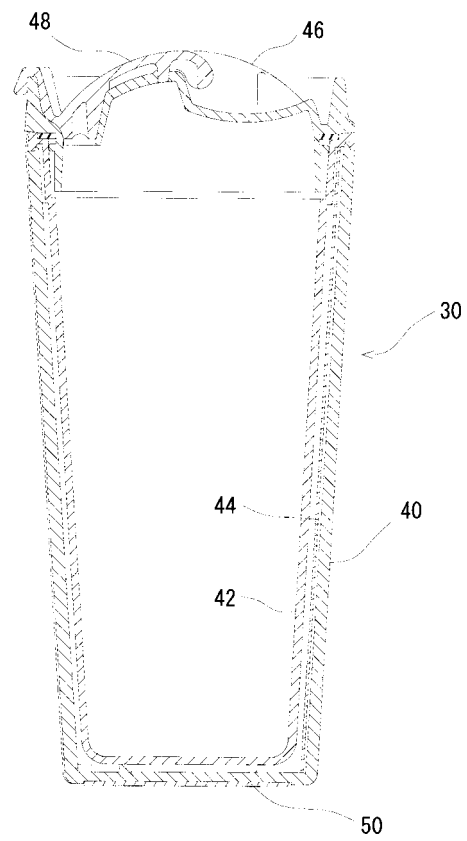
20

30

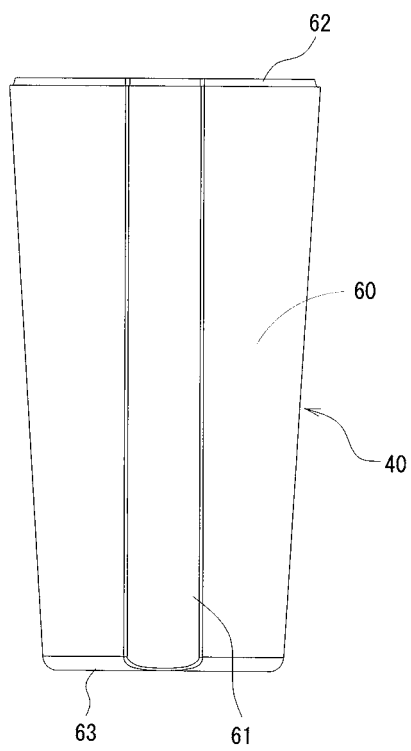
【図 1】



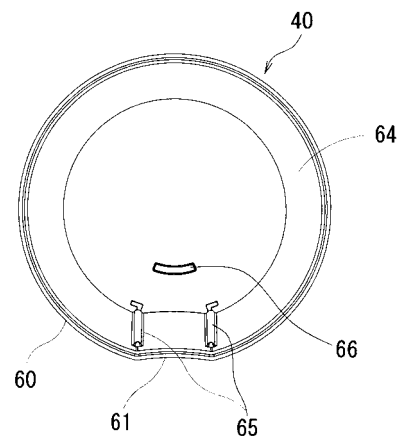
【図 2】



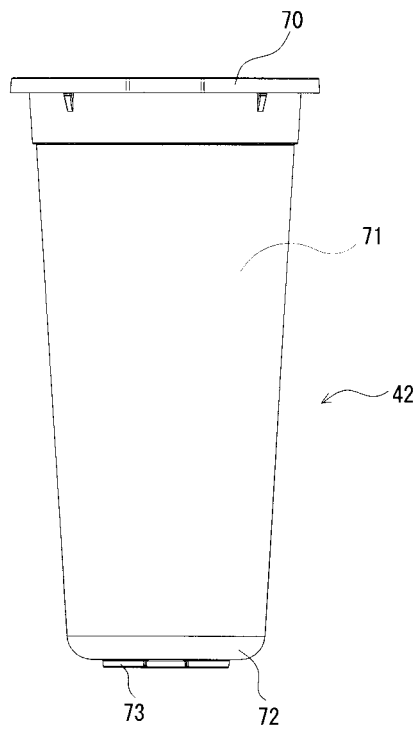
【図 3】



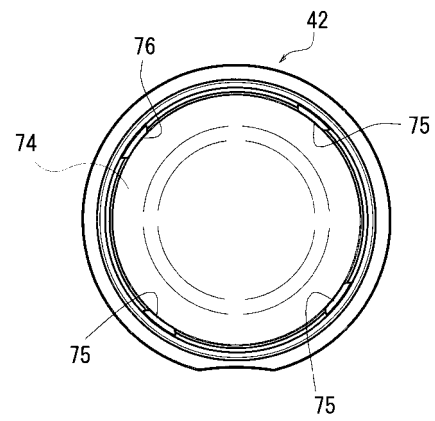
【図 4】



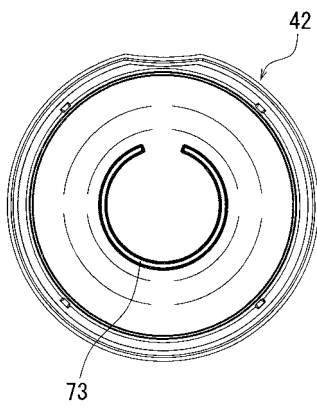
【図 5】



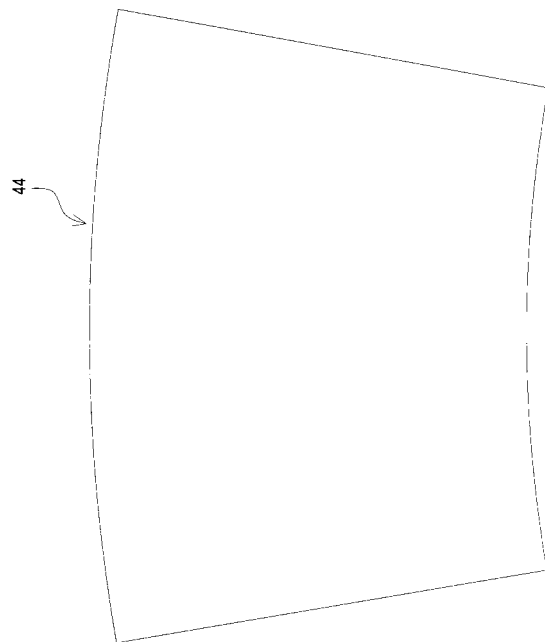
【図 6】



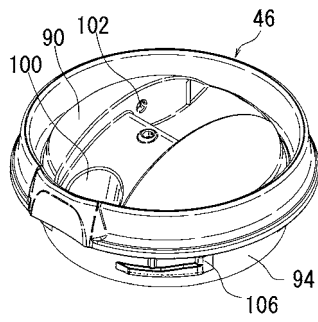
【図 7】



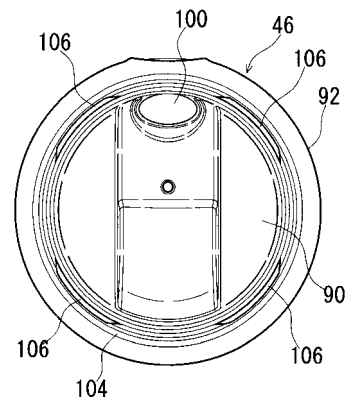
【図 8】



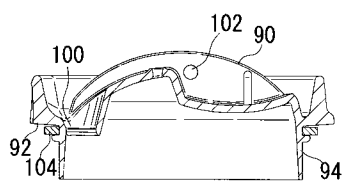
【図 9】



【図 10】



【図 11】



【図 12】

